

平城宮跡・藤原宮跡の整備

平城宮跡発掘調査部・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・庶務部

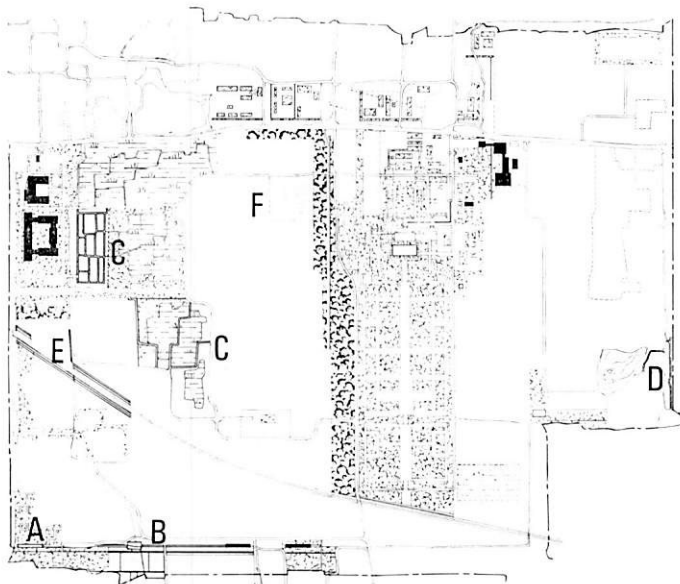
1. 平城宮跡の整備

1983年度に実施した宮跡整備は、平城宮の西南隅部での南面大垣復原整備、南辺部中央西部での外周緑陰帯整備、平城宮跡資料館東部および佐伯門東南部での草園整備、東院東南隅部での東院整備、近鉄線沿いの修景整備および第一次大極殿院地区の整地などである。

南面大垣の復原整備 南面大垣の復原建設は、朱雀門両脇および東西の隅部4カ所を計画しており、昨年度までに朱雀門の両側約50mずつを整備している。そこで今年度は、周辺環境整備の完了している宮の西南隅部分の復原建設をおこなった。大垣の寸法は、昨年と同様、大棟上端までの総高を5.63m、基底幅2.7mとし、総延長51mを復原した。

南面大垣の軒瓦 門・大垣地域の発掘調査によって出土した軒瓦は量的に少なく、また特定の型式に集中しない傾向を示す(『平城宮発掘調査報告Ⅳ』)。そのため、朱雀門両脇においては、比較的出土量が多くまた第一次大極殿地域において主要な組み合わせとなっている6284C—6664C型式を採用した。西南隅部では、出土頻度が次に多い6273B—6641C型式を選んだ。

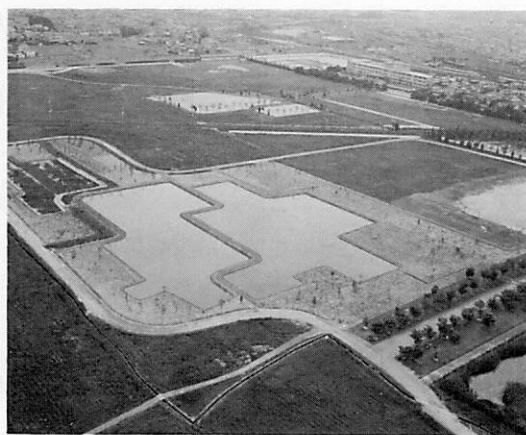
外周緑陰帯整備 宮跡南辺部において西端部から開始した外周緑陰帯整備を、今年は、若犬養門跡を中心とした南辺中央西寄り約11,230m²について実施した。今年度施工区には、若犬養門跡(29×14m)、南面大垣(約187m)、堀地、二条大路(約270m)およびその両側溝・西一坊坊間大路が含まれている。若犬養門跡では、凝灰岩縁石により一段立ち上げて門の基壇規模を表示し、基壇内を張芝とした。この門跡には、現在、用水路2本が十字に交差して流れており、流路を変更することができないため、今回の整備ではこれらの用水路に基壇が4分された状態のままの表示をし、用水路にはグレーチング蓋を布設した。南面大垣については、凝灰岩切石を大垣の基底幅(2.7m)に並べ、その中に中木(サザンカ)を植栽し、位置を表示した。二条大路については、その幅員を38mとし、大路両側沿いにシダレヤナギを列殖した。大路上は砂塵等の飛散を防ぐため張芝としたが、



平城宮跡整備位置図

若犬養門前58m間は、西一坊坊間大路の交差点を含め粒調碎石舗装をし、道路の雰囲気を出すようにした。門跡より東部（旧積水工場敷地）では国有地幅が狭いため、二条大路の北側溝南岸線より4～5m幅の表示にとどめ、北側の並木の植栽のみをおこなった（図中B）。

草園整備 宮跡西部の谷筋では草園による整備を計画しており、今年度は平城宮跡資料館東部（10,280m²）および佐伯門東南部（25,160m²）を整備した。平城宮跡資料



平城宮跡草園整備

館東部では、レベル的に自然流下で水をためることはできず、池沼の造成が困難であるので、1972年に乾地性草木類を植栽し、仮整備を促進してきた。しかし、雑草の侵入、管理に要する人手や経費の不足のため、従来どおりの整備が困難となってきたので、芝生と樹木を中心とした整備に改変した。そして盛土上に旧畦畔を拡幅して碎石敷の苑路とし、旧水田当時の地割を示した。佐伯門東南部では、1981年度に造成したすぐ北側の池沼から高い水位を保った水路を設けて導水し、3つの大きな池をつくった。池水は順次流下するようにし、水深も最大45cm程度におさえた。池外周の堤は、粘土を締め固めて漏水を防ぐようにし、堤上面は碎石敷とし苑路に利用するようにした。なお、水をためることのできない箇所については、池沼外周の堤のレベルに合わせて盛土し、センダン、コナラ、ムクノキ、ヤナギ、等の落葉樹を主として植栽した。

東院整備 平城宮遺跡博物館構想で早期の整備が計画された東院庭園地区は、一部の土地の買収ができず、計画実施を後年に送らざるを得なくなっている。しかも、買収地については、年数回の草刈りだけでは十分な管理ができず、雑草や害虫発生等で隣接地からの苦情も多い。そこで、境界沿いにコンクリート製U形溝を布設し、その内側に碎石舗装の管理用道路を造成し、雑草地と私有地間の分断を図った。今回整備した地区のうち東辺部では、買収地境界が東辺大垣、堀地外側の溝（東二坊坊間大路西側溝）上を走っているため、溝の西岸線と管理用道路西肩線とを一致させた。なお管理用道路内側は盛土して灌木を群植し、芝刈り等管理作業回数が軽減できるようにした。

近鉄線沿いの修景整備 宮内の環境整備の進展にともない、ところによっては宮内を横切る近鉄奈良線の軌道近くにまで整備地が及び、宮跡利用者による軌道横断等の危険性も生じてきた。とくに佐伯門東南部の草園整備など宮西部での整備地が軌道敷に近接する箇所が多くなったので、宮西辺から東へ約270mの間、軌道沿い両側を植栽によって修景整備した。植栽は、中央をサザンカの列植とし、その前後をヒラドツツジ、クチナシ、アセビ等の灌木の混植帯とした。

なお、佐伯門南で近鉄線北側の旧資材置場を整理し、その東側に設けていた目隠し用の土塁を撤去し、土塁上にあった樹木を旧資材置場内に適宜植栽した。

第一次大極殿院地区整地 第一次大極殿院地区および朝堂院地区は、すでに相当部分の調査が完了している。この地域の環境整備については、朝堂院地区を除いて近々の計画はなく、調査終了後の埋戻しをおこなったままの状態である。しかし平城宮跡資料館と覆屋間の見学路や県道（通称一条通）を通る一般見学者から見ると、第一次大極殿院以南は荒地状であり、早期整備化の要望も多い。しかも春秋の平城宮跡特別公開時には、平城宮跡利用者の数は年々増加し、周辺道路はマイカー駐車で混雑し、定期バスの運行や地元住民の日常生活にも支障をきたし、地元住民・バス会社や警察から臨時駐車場の開設が強く要望されるようになった。そこで荒地景観を解消し、平城宮跡特別公開期間中の利用者が駐車できる場所として、県道からのアプローチを考慮し、第一次大極殿院地区約7,390m²を選んで整地した。表層は碎石舗装とし、約15m間隔でU形溝埋込みによる地中排水路を布設した。

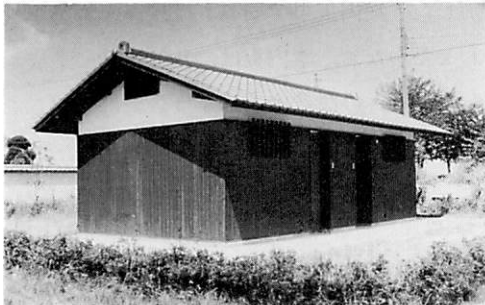
その他 1982年度までに復原した南面大垣が、落書き等による損傷を受けたので、大垣をとり囲む形で背丈の低い樹木（イヌツゲ、トベラ、ヒラドツツジ）を植栽した。

	南面大垣	外周緑陰帯	草園整備	東院整備	近鉄線沿い 修景	第一次大極 殿院整地	大垣囲障植栽
規模	51m	11,230m ²	35,440m ²	2,030m ²	4,420m ²	7,390m ²	197m
工費(千円)	95,000	62,800	80,220	9,870	18,220	11,500	3,950

2. 藤原宮跡の整備 (7)

1983年度の藤原宮跡の整備では、見学者用便所の建設、見学者広場の造成および案内板の設置をおこなった。

見学者用便所の建設 藤原宮跡は、飛鳥地方見学の半日あるいは1日コースに含まれている。最近、大極殿周辺の整備が進んだこともあって、見学者は年々増加してきている。宮跡には、主にレンタサイクルを利用して訪れる見学者が多く、滞在時間も長くなる傾向にある。しかし、やっとたどりついた藤原宮跡には便益施設がなかったため、大極殿近辺の民家に迷惑をかけることも多く、地元住民から便益施設を設けるよう強く要望されていた。そこで大極殿近くに便



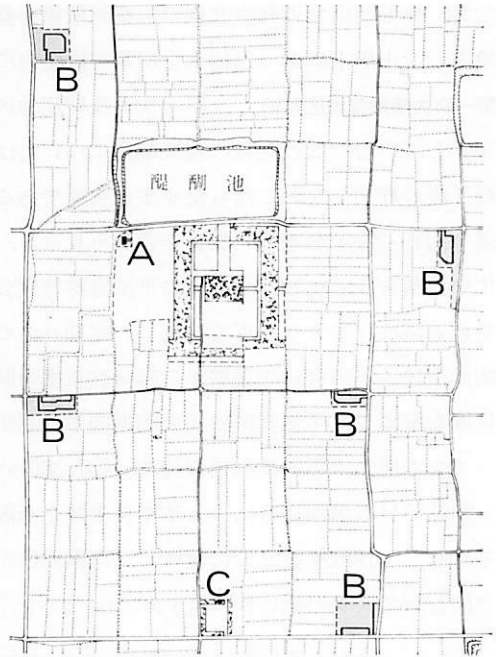
藤原宮跡見学者便所

所を建設することとした。その建設地の条件としては、浄化槽を埋設しても遺構破壊の心配が無い既調査地であること、周辺水田や溜池に影響なく給排水ができること、景観的にも余り目立たない場所であることとした。検討の結果、柱穴等の遺構のない先行条坊の四条々間路と西一坊々間路の交差点上に場所を選定した。建物の平面規模は、8.4m×4.3m（面積36.12m²）で、

高さではできるだけ低く押えて、4.32mとし、屋根は棧瓦葺きで切妻造の構造とした。外観は和風を強調し、外装を木造の白壁仕上げとした。なお便器数は、男性用大1穴・小4穴、女性用4穴とし、室内の壁はすべて色タイル貼りとした。

見学者広場の造成および案内板の設置 藤原宮跡では現在も毎年指定地の買収を継続しており、国有地面積は年々変化している。そのため宮跡を訪れる見学者は、水田跡の雑草地や耕作地の入り混じった現状に接することになり、宮跡の範囲や地割等を一見して理解することがむずかしい。しかも大極殿周辺の整備地面積は、広くなったとはいえ、全体から見るとまだ6.8%程度にすぎず、宮跡に到着しても大極殿への道もわかりにくい状態である。そこで見学者がよく利用する宮跡へのアプローチ道を選び、その道沿いの買収済地を見学者広場として仮整備することとした。見学者広場には、藤原宮跡の案内板を設置し、見学者が小休止できる場所として擬木製のベンチを設置した。また、周辺の景観を考慮して、外周を植栽帯で囲み内側を碎石敷とし、落ち着いたふん囲気を持たせるようにした。案内板には台檜材を使用し、説明文の文字は教科書体で機械彫りとし、現況地図に遺構配置図を重ねてステンレス板(70cm×70cm厚2mm)に腐食し、ラッカー塗りとし、その色彩で表示対象を区別した。案内板のデザインは、藤原宮跡を説明するものとして、大極殿北側の既存のものに合わせた。なお、案内板は、1981年度に造成した見学者広場に1基設置しただけで、本年度造成した広場への設置は、本年度以降に予定している。

(細見啓三・渡辺康史)



藤原宮跡整備位置図



見学者広場案内板

	見学者用便所	見学者用広場	案内板
規模	36.12m ²	6,550m ²	1基
工費(千円)	12,180	31,500	2,920